

地方でのプロジェクトは 現地に軸足を置くことで加速する



ホテル一体となっているコワーキングスペース enun 緑雲 松江にて

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

国内トップクラスの化粧品製造・販売を手掛けるポーラをはじめグループ企業の経営管理を担う。従業員数約4900名（連結）。化粧品を中心とした「美と健康」に関わる事業を展開。



島根県

人口約67万人。中国地方の北部に位置し、松江城は2015年に国宝に指定。縁結びの神として知られる出雲大社へは多くの参拝客が訪れる。「美肌県しまね」としてもPRしている。

プロジェクト担当者



山川 弓香さん

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
美肌ウェルネスプロデュース事業プロジェクト
オペレーティングディレクター / 美容スペシャリスト

取組概要

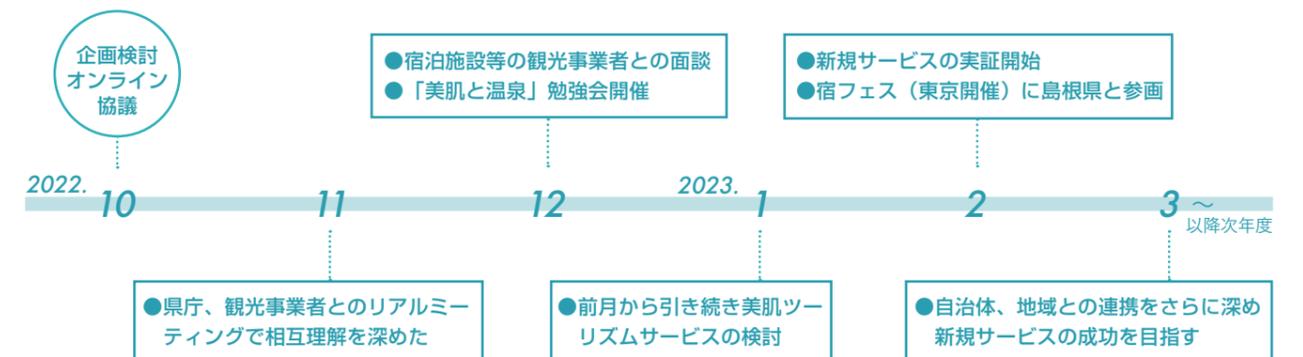
行政、地域事業者との交流で 地域プロジェクトを加速

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス（以降、POHD）は、2021年に島根県、ANAホールディングス株式会社の3者で「美肌ウェルネスツーリズム」を発足し、POHDの所有する肌知見や美容技術と島根県ならではの観光資源を組み合わせ新たなツーリズムやサービスの検討を進めてまいりました。しかしながらコロナ禍の状況で、県外からの旅行者を呼び込む宿泊を伴う施策は実施が難しく、ツーリズム以外で、「美肌」につながる観光に活かせる情報づくりへシフトした結果、県内の温泉宿の泉質を分析して、宿の価値を高めるように方向性を変更しました。

また、プロジェクト開始から県や温泉宿などの地域事業者とのリモートでの打合せをせざるを得なくなり、コミュニケーションがうまくとれないという、プロジェクトの推進の面でも課題を持っていました。そこで、本事業では県庁所在地の松江市を拠点に、プロジェクトメンバーが長期に渡って、複数回、島根県内に訪れ、テレワークを実施しながら島根県庁や県内の温泉宿との対面での打ち合わせ等を重ねることによって、美肌温泉と化粧品を融合させた旅行者が現地ですら体験できない新規サービスの立ち上げを目指すことになりました。

県庁での「美肌と温泉」に関する勉強会や、温泉宿との対面での打ち合わせ、今まで時間的に難しく行けなかった県西部の温泉宿への訪問等を行い、2月末より新規サービス開始に向けた実証実験が開始しました。

実証スケジュール



温泉宿独自の美容サービス視察



温泉宿との対面での打ち合わせ

実証結果

観光事業者と信頼関係が構築されて新しいサービスを開始

今回の事業での最大の成果は、温泉宿や島根県観光振興課の担当者を含めて、地域の方々と信頼関係を構築でき、「私たち POHD と新しいことができるかもしれない」という期待を持っていただけたことです。これまでのリモートでの打ち合わせは、お互いに共通言語が少なく、環境含めてコミュニケーションが取りづらい部分がありました。対面での実施により、会議の延長で実際に今抱えている課題や、今後取り組みたいことなども聞くことができ、コミュニケーションの密度が上がったと思います。

具体的な事例として2つ挙げると、1つ目は、今まで作成していた美肌泉質のポスターやチラシに対して、現地を実際に見ずに作成していたため、発想の幅が広がらず、本当に宿が求めているものが実現できていないという課題がありました。

今回、プロジェクトメンバーのデザイナーが現地で実際に宿を見て、色味や雰囲気を感じ、宿の方とニュアンスなどの細かい部分話すことが出来たことで、お互いの取り組み意欲が高まったと感じています。

2つ目として、今までは美肌泉質の分析結果やポスターなどを宿のご担当者の方々に郵送していましたが、郵送するだけでは受け取っても、それをうまく活用できないという課題がありました。今回、対面で宿に説明する機会を多数つくったことで、分析結果とともに送ったポスター等の掲示例を示すことができ、宿側の理解につながりました。温泉宿の方と密にコミュニケーションが取れたことで、新しい温泉と化粧品が融合したコト体験サービスの開始に向けて2つの宿と1ヶ月の実証を開始することが出来ました。

また島根県観光推進課に向けて、本プロジェクトの核となる「美肌と温泉」に向けた勉強会を開催しました。やはり美肌というテーマということもあり、これまで理解が難しかった男性を中心に理解向上につながり、そのことが今後の県からの PRR 発信の表現の向上につながることを期待できます。

そして社内側でもプロジェクトのメンバーでバックオフィスの担当も島根県に行くことができ、社内のプロジェクトの連携度合いが高まりました。また、今回の「地域に滞在したからこそプロジェクトが前進した事例」を社内で共有し、研究メンバー含めて、「地域で短期間でも滞在してプロジェクトを進めていく働き方」の提案も始めました。

事業を進める中で見えた課題としては、まず長期滞在だからこそ、3回の食事や宿泊したホテルの広さや設備といった「生活との融合」を大事にすべきだと気づきました。

また、ネットワーク環境、ワークスペースとの連携などの施設の質が重要になってくると思います。拠点としていた coworkingスペースは、最初は施設側のオペレーションが慣れていない部分もあり、手続きに時間がかかり、会議に遅れるなどの問題もありましたが、数ヶ月何度も利用することで、オペレーションがとてスムーズになりました。

また、仕事時間の確保という面では、現地での移動時間がネックとなりました。島根県内の移動は主にレンタカーとなり、自分で運転が必要となるため、移動時間に業務ができないという発見がありました。ただ雪の期間は、県庁の方が運転する車で移動することが多く、その時間が打ち合わせ時間になるという利点にもなりました。

今回、大雪の影響で滞在や移動が難しくなったケースもあり、場所の選定に当たり気候は大きく影響すると感じました。



enun 緑雲 松江 coworkingスペース



ミーティングも明るいオープンスペースにて



enun の目の前に広がるのは宍道湖



水の都 松江 旧日本銀行松江支店の建物を利用した工芸館「カラコロ工房」

	実施前	実施後	
実証実施前に期待した効果と実際の成果			採用の優位性の確保（優秀人材の確保）
			地方人材の採用・育成
			地方移住を希望する従業員の離職防止（テレワークによる就業継続）
	●	●	従業員のワークライフバランス向上
	●	●	福利厚生等を目的としたワーケーションの推進
		●	従業員の発想力・創造性向上によるイノベーション創出
		●	従業員同士のリアルなコミュニケーション機会の提供
		●	仕事の品質や効率の向上を目的としたワーケーションの推進
	●	●	企業イメージ・企業価値の向上
		●	地方オフィス活用（+都市圏オフィス縮小）による家賃コスト等の削減
	●	地方自治体や地方企業との関係構築・新規ビジネス創出	
	●	災害等のリスク分散による事業継続性アップ	
●	●	地域貢献、地方創生（東京一極集中を是正し、地域を盛り立てること）への寄与	
		その他	

➡ 当初想定の効果の他、創造性向上によりイノベーション創出やコミュニケーション機会の向上等の効果が得られた

企業としての展望

まずは、2月末から開始した新規サービスの顧客満足度調査の結果をうけて、改善点などをしっかり分析し、温泉と化粧品が融合したコト体験サービスの開始に向けて進めていきたいと思っています。

また、3月末までの上記結果を県に共有して、「新しい動きにどうつなげていくか」「今後は我々と観光事業者同士でどう進めていくのか」について話し合う予定です。

今年度までは県と POHD の双方が費用を出し合ってプロジェクトを進めてきましたが、最終的には「民間同士が連携して、お客様にサービスを提供していく形」になることを期待いただいているので、それに応えていきたいです。

